

教育目標	<p>一人一人がその子らしさを発揮しながら仲間の中で育ち合う 心豊かで やさしく たくましく 生きる子</p>
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、それ以前と同様の保育の取組は十分にはできなかった。しかし、感染症対策を講じ、可能な時期に、できるだけの内容、方法で充実した保育を求めて実践に努め、関係者から概ね良好な評価を得た。感染症対策に努め、保護者の協力、子どもなりのがんばりによって感染症の陽性者を出すことなく1年を終えられた。引き続きしっかりとした対策を講じて保育を進めていきたい。 ・少人数の園であるため、一人一人がよく見え、その子らしさを受け止めやすい環境であるが、大人数の仲間の中でこそ育ち合うのではないかといった能力や態度について、どのようにして育んで行くのか、特にコロナ禍の中での密集や接触を避けなければならない状況での保育の在り方について保護者や教職員で今後十分に共有して取り組んでいかなければならない。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において一生懸命取り組まれた先生方の感染予防対策のおかげで、感染者が一人も出なかったことは大変大きな成果である。 ・今後はコロナ禍において縮小した地域や小学校と直接交流する機会、また子どもたちの制約された社会活動のマイナス面をこれから埋めることは大きな課題になると思う。 ・多国籍の園児を細やかにケアされた先生方のご苦労を評価したい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月31日	学校運営協議会
最終評価	3月31日	学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス、異年齢、未就園児、小学校や保育所も含めた子ども同士の関わりの中での、具体的な関わりの場面の記録(写真・エピソード)をもとに、『自立心』の育ちと教師の援助、環境構成について考察し、それをもとに保育の質を高める。 ・少人数学級の良さと課題を意識しながら、子どもが主体的に夢中になって遊び込める生活や活動、行事について検討し、実践する。子ども同士の関わりの中で、受け入れられたり、自分とは違う感じ方や考え方に会い、また、時には材料や道具が十分でない場も設定することで、葛藤したり折り合いをつけたりするなどの様々な感情体験ができるようにする。

- ・絵本やお話、歌を楽しんだり、外国人幼児等には、特に、遊びや生活に必要な挨拶や名称をゆっくり分かり易く知らせたり、やさしい日本語で話しかけたりして、語彙や表現を広げる。また、中国語、英語、インドネシア語の簡単な挨拶やお話、踊り、遊びなども取り上げ、互いの言語や表現に興味関心をもち、コミュニケーションの楽しさを味わえるようにする。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の姿、環境や援助に工夫や充実が見られるか。
- ・園だよりの「子どもの姿」や掲示物、エピソード研修において、写真等をもとにわかりやすい発信、それらを活かした、保育の改善・充実の状況を考察、検討できているか。
- ・少人数保育の良さと課題についてのアンケート（保護者・教職員対象）
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・週案に週ごとの子どもの様子やそれに対する保育の取組などについて記載し、次週の保育に活かすようにしていた。特に、コロナ禍における対策や子どもへの指導についてはことあるごとに確かめながら取り組んだ。また、少人数学級におけるメリット、デメリットについても意識し、援助や環境構成に努めていた。
- ・外国にルーツをもつ子どもたちや保護者への対応についても、日本語を基本としながらも必要な場面では、携帯翻訳機を使ったり、通訳のボランティアの派遣を要請したり、英語、中国語、インドネシア語に翻訳した文書を用意するなどして、より安心して遊び、生活できるようにした。
- ・アンケート結果では、少人数学級に対する大きな不安等は見られなかった。概ね、高い評価をいただいた。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・コロナ禍にあっても、保護者のご理解、ご協力や、子どもたち自身の頑張りによって、保育を続けることができた。手洗い、消毒等、感染症に対する生活の仕方や態度など、身についてきている。
- ・少人数学級における保育については、常に意識し、日常の保育や研究保育、エピソード記述の検討などで振り返りながら取り組んでいくようにしている。少人数の園でありながら、密を避けるために学年別の取組になることで、より小さな集団にならざるを得なかった。可能な期間、可能な内容については、対策を講じて合同の行事等にも取り組めた。他の幼稚園や小学校との取り組みも実施することができ、集団の広がり意識することができた。
- ・外国にルーツをもつ子どもや保護者も本園の保育について高く評価されていて、保護者同士の繋がりも深まってきているようで、安心につながっているようである。しかし、保育のねらいなどについて保護者への説明は容易ではなく、課題がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・コロナ禍における生活の在り方、保育の在り方について、常に意識して、取組に緩みが出ないように保護者のご理解やご協力をいただきながら進めていく。
- ・少人数学級における保育における保育の在り方について教職員間でより一層共通理解を図りながら、取組を進めていく。メリット、デメリットについて、固定的に捉えず、多面的な柔軟な捉え方で保育を進めるようにする。
- ・通訳ボランティアの活用を進めたり、携帯翻訳機の環境を整えたりする。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

	<ul style="list-style-type: none"> ・週案の「前週の姿」、反省・評価に記述した幼児の姿、環境や援助に工夫や充実が見られるか。 ・園だよりの「子どもの姿」や掲示物、エピソード研修において、写真等をもとにわかりやすい発信、それらを活かした、保育の改善・充実の状況を考察、検討できているか。 ・少人数保育の良さと課題についてのアンケート（保護者・教職員対象） ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策については少人数だからこそ、子どもたちに負担をかけずに蜜を回避できていて保護者の安心にも繋がっている。 ・日本語が通じにくい園児、保護者に対する様々な工夫が感じられる。国際色豊かな環境を生かした教育がされている。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、対策を講じ、注意を払いながら、どのような保育ができるのかを考えながら日々の保育を進めてきている。 ・外国をルーツにする家庭の割合が高く、日本語で伝えることが難しいこともあり、写真で保育の様子を紹介することに力を入れた。 ・アンケート結果は概ね良好であった。少人数であることによる不安などのご意見も頂いていない。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、様々な制限があり、コロナ禍以前と同じように取り組むことは難しかったが、環境や援助を工夫しながら取り組んだ保育について保護者から評価していただいた。 ・少人数であることはコロナ禍の中での幼稚園生活にはプラスの面もあり、安心につながっている面もあるが、少人数から生じるマイナス面をどう改善するかについて保護者とも共有し、よりよい保育を求めていかなければならない。 ・外国をルーツにする家庭へ様々な取組や配慮を行ってきたが、十分ではなかっただろう。学校指導課からの通訳ボランティア、日本語教室の講師の派遣などの支援、事務支援室からの WIFI 環境を使った携帯翻訳機の導入許可など頂いているが、日常的な保育の進め方、保護者への連絡、外国語版「お便り」など、働き方改革などとも絡んで、課題は多い。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコロナ禍の中で感染症対策を進めながらの保育の在り方について、検討し、充実に向けて実践していく。 ・少人数園での保育の在り方について、プラス面、マイナス面について検討し。教職員、保護者とも共有しながら、よりよい保育を実践していく。 ・外国をルーツにする子どもや家庭への援助の在り方について検討し、実践すると共に、この環境を保育にも活かしていくようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多国籍の子どもたち、また日本語を話せない保護者に対して、コミュニケーションを工夫されておられる姿が素晴らしかった。また、子どもたちも日本の文化を受け止め、挨拶、礼を自然と行っている姿に日頃からの先生方の関わりの工夫が感じられた。 ・コロナ感染者が出なかったことも大きく評価したい。

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組

- ・子どもと保護者とが安心して就学を迎えられるように、近隣の小学校の児童と幼児、教職員同士の交流を深化、充実させる。京極小学校、室町小学校との子ども相互、教職員相互の交流・連携を進め子どもたちの発達や学びを連続的に捉える視点を共有する。
- ・年間の交流計画をもとに、感染症拡大状況に配慮した交流を進め、直接対面できない場合でもICTや手紙等も活用しながら、子ども同士の思いのやりとりを大切にしながら継続的な交流を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間交流計画の作成、京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流・事前事後研修、作品展交流、授業保育参観、懇談会、合同研修会へ参加ができています。
- ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討を行っているか。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・年間交流計画は大枠では作成できた。保育や授業の参観を通しての研究、交流は一部を除いて実施できなかった。御苑で出会う交流や、生活科授業での保育・交流など実施できた取組については、事前事後の話し合いの場を対面やオンラインでもつことができた。
- ・KKPの夏の合同研修会で幼稚園の取組をオンラインで紹介し、幼稚園の取組の理解につなげることができた。
- ・小学校と連携して、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムを検討する場を設けることが難しかった。各々で進めている。
- ・保護者からのアンケートでは、概ね肯定的な評価をいただいた。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・コロナ禍のため、これまでのように交流することができていない。しかし、対面での交流が可能な期間や内容によっては慎重に対策を講じながら交流することができた。そのために保幼小で話し合いを進め相互理解を進める機会をもつことができた。また、オンラインその他の方法での交流の方法についても工夫し、実施することができた。
- ・スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムについてはそれぞれで、紙面上での検討に限られていた。様々な方法で協働して検討できないかを考えたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・難しい条件下での取組になるが、限られた条件の中で、どのようにすれば連携・接続を進めるための取組が行えるのか、保幼小で協働して考えていきたい。取り組み方の一つの選択肢としてのICTについても、可能性を探っていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・可能な範囲での、年間交流計画に基づいた、京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流・事前事後研修、作品展交流等ができています。
- ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討を行っているか。
- ・アンケート

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、各学校の中でも全生徒で活動できないような世情では、対面での交流の機会減少は仕方がない。その中でも、情勢が安定した中での交流やオンラインでの交流により、工夫して各校との連携をされている。
---------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を元に、対面しての交流が可能な時期には事前、事後に話し合いをして、感染症対策を十分に講じながら交流の場を設けることができた。それぞれの発達段階を踏まえて、お互いに意味のある交流ができた。作品展を開いてお互いの作品を展示し合うことはできなかったが、保・幼・小・中の先生方が鑑賞に来られ、作品や保育について話すことができた。 ・カリキュラムの検討は、各々で進めることになったため、協議検討は難しかった。 ・アンケートでは評価が高かった。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き、可能な時期に必要な対策を講じての交流がもてた。校種間で幼小連携・接続の意義が認識されるようになり、対面が無理なら別の方法でも何とか実現できないだろうかという意識がもてるようになってきているように思う。 ・オンラインで保育室と教室を繋ぐなど ICT の活用など様々な工夫をしながら交流が進められるようになってきた。 ・コロナ禍の中での取り組みがいつまで続くかわからないが、連携・接続の意義を共有し、工夫しながら取組を進めたい。その中で「かけはしプロジェクト」についても研修し、実践的に検討していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる交流の形が徐々に定着してきているように思う。いろいろな交流の形、工夫の一つとして、今後も採り入れていきたい。 ・「かけはしプロジェクト」について、保・幼・小で実践的に研修する場がもてるように、年間計画に位置付けるようにしたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年もコロナ対策のため満足に対面での幼・保・小の交流ができていない。特に年長から小学校へ進学する際のサポート体制が不足している。以前のように対面で交流することが早くできるようになることを望む。また、進学へ向けての保護者のケアもお願いしたい。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心して参加できるように、指導者間の細やかで確実な情報共有や連絡を大切にする。 ・異年齢、少人数だからこそ経験できる活動や、外国語ボランティアによる読み聞かせや 織物、サッカー体験などの特別プログラムも計画する。 ・保護者のニーズをつかみつつ、子どもにとってよりよい保育内容や関わりを共に考えていく。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムを作成し、事後に振り返り、計画の修正を行っているか。

- ・保護者のニーズに応じた子育て支援になっているか。

中間評価

自己評価	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の年間計画を作成した。コロナ禍にあつて、計画通りには実施できていないが、感染症拡大防止の観点から計画を見直し、修正しながら実施した。 ・新2号認定の家庭を中心に様々な保護者のニーズに応えるようにしてきた。しかし、感染症拡大防止の観点から預かる対象を絞らざるを得ないこともあった。安心安全な環境で保育が進められるように対策を講じたが、保育内容に制約もあった。
	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・必要な対策を講じつつ、預かり保育の実施可能な期間には閉鎖することなく実施することができた。サッカー教室や外国語絵本の読み聞かせなど外部講師を招く取組は実施可能な時期と実施を見合わせなければならない時期があったが、感染症拡大防止の観点から必要な措置であったと考える。 ・もともと利用者が少ないのだが、それでも子ども同士が密接して遊ぶ、リスクの高まる場面も見られる。リスクを下げる環境設定や指導を続けていかなければならない。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ子どもが個別に集中して遊べる環境や教材を用意するようにする。 ・子どもや保護者同士が学年を越えて密接するリスクをより一層減らすようにする。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあつてもより充実した保育内容を計画し実施できたか。 ・時間差や場所の区分によって、感染症のリスクを減らすための取組が進められているか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育についてはなお一層の感染予防対策が必要になるため、外部講師との交流が減少したのは理解できる。 ・感染予防に日頃から神経を研ぎ澄ませていらっしゃる先生方のストレスを心配する。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、外部講師による読み聞かせの会など割愛した日もあったが、子どもたちの希望も採り入れながら楽しめるものを用意した。 ・特に後半は、学年ごとに遊ぶ場を分けるようにした。園庭と保育室の時間割を決めて遊ぶようにした。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・万が一陽性者が見つかった場合でも、感染や濃厚接触が2学年にまたがり、休園をしなくてもよいように、場所や時間を分けて遊ぶようにした。結果として、感染者がゼロで過ごすことができた。 ・利用人数が増えると、部屋に対して子どもの密度が高くなるので、2部屋以上に分けて保育しななければならない。指導者の確保も必要となる。
	分析を踏まえた取組の改善

	・リスクを高めることなく保育内容を工夫して充実させたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>まずは、子どもの健康を守るうえで、外部講師の導入や自由な行動がかなわない場合もあったが、そこは健康を優先で間違いないと思う。長期間にわたりコロナ感染者なく、保育を止めることなく実施できたことは大いに評価したい。</p>

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育によって、保護者の就労等を支援したり、降園後に異年齢や同年齢の子どもと一緒に遊ぶ機会をもったりできるようにする。異年齢、少人数だからこそ経験できる活動や、外国語ボランティアによる読み聞かせや、織物、サッカー体験などの特別プログラムも計画する。 ・未就園児とその保護者が安心して遊び、園児や教職員の様子を見たり、保護者の子育ての不安や悩みを軽くしたりする場として、うさぎ組、ひよこ組の保育内容や時間数を充実させる。在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じていただけるようにする。 ・取組の様子をホームページ、チラシ、広報紙等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多くの方に参加していただけるようにし、入園者増加につなげる。 	
（取組結果を検証する）各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の保護者と会話したり相談を受けたりできているか。 ・幼稚園の取組をより分かりやすく伝えられるよう資料等用意できているか。 ・園庭開放や未就園児保育の利用者数、問い合わせなどは増えているか。 ・アンケート 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・徐々に教育相談に訪れる未就園児親子が増えてきた。保護者同士が和やかに語り合う場の提供ができた。しかし、時には、参加者が多く、感染症のリスクが高まっているのではないかとと思われることもあった。 ・実際の取組の様子を写真等で記録し、掲示したり、ホームページで紹介したりした。京都市立幼稚園の取組を映像を使って説明会等で紹介した。 ・幼稚園への問い合わせはあるが、利用いただけない時期の場合もあり、利用者数は大きく増加するまでには至っていない。 ・アンケートでは高く評価されている。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援の施設が閉鎖していることもあり、利用できる場所を探し回っておられるという声をよく聞いた。そういった方々の受皿になる時期もあり、ミニ運動会など、大変喜んでいただいた。 ・乳幼児の感染例が少ないようであるが、リスクを避けるために利用を控えられる場合もあるようである。できるだけ感染症対策を講じてはいるが、完全に不安をぬぐうことはできない状況である。 ・未就園児親子への教育相談の様子を掲示物等で紹介することができた。ウェブサイト等ではプ

	<p>ライバシーのこともあって紹介することに限界があるので、見ていただく範囲が限定的である。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子が安心して利用できる地域の施設が少なく、本園では可能な限り感染症対策を講じて開設していきたい。 ・引き続き未就園児親子の教育相談の様子を掲示物等で紹介し、利用者を増やすようにする。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の親子が安心して利用するための場や時間が設けられているか。 ・幼稚園の取組をより分かりやすく伝えられるよう資料等用意できているか。 ・園庭開放や未就園児保育の利用者数、問い合わせなどは増えているか。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の外壁のトトロの刈込みや、ポスターの掲示を見ている未就園児の親子の姿をよく見る。園の工夫が感じられる。 ・感染対策と利用者を増やすジレンマが感じられる。園はいろいろなイベントを計画されている。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児対象の取組については、できるだけ在園児親子と3歳児親子との接触を無くすなど、まん延を防止するための対策を講じ、一部の取組を縮小しながら実施した。2歳児以下についても、感染症のまん延が比較的落ち着いている時期には、実施していたが、「重点措置」の期間に入り、中止することにした。 ・中止しなければならず、園庭開放や未就園児保育の利用者数、問い合わせなどが増えることは無かった。 ・預かり保育の保育内容を様々に工夫、計画していたが、変更、縮小、中止を余儀なくされたため、利用者増加のための取組はほとんどしていない。新2号認定の家庭への支援になっている。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を最優先にせざるを得なかったため、未就園児家庭への取組は十分にはできなかったが、陽性者ゼロが何よりの成果ではないだろうか。外出の折に園に立ち寄ってもらい、教材を配布するなどの取組も好評であった。 ・預かり保育では、サッカーをはじめとして、外部講師を必要とする取組を中止、縮小せざるを得なかった。さらには、学年ごとに部屋や時間を割り振るなどの対策を講じた。預かり保育には保護者の就労等の支援の役割もあるが、帰宅後、きょうだいの少ない家庭の遊び仲間を保证する意味合いもある。しかし、感染症対策の観点から利用を控えられ家庭もあっただろう。 ・引き続き、感染症対策を講じつつ、工夫して、保育内容を充実させるように努めたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、感染症に対する対策や意識を緩めることなく継続することと、その中でどのように保育内容を充実していくかを検討、計画する。

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者はかつてない交流の場を失っている。子育ての情報交換がままならない現状では、育児の孤立感を深める要因になりかねない。今度のコロナの状況が改善したら今まで以上の保護者の交流の機会、PTA 活動の再開を求める。
---------	--

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の組織を充実させ、幼稚園と地域との相互の信頼関係をさらに深め、教育力を高める。また、園の現状や課題についても共有し、的確な評価の下で、保育の充実を図る。 ・子どもが豊かに学び、育つ、より選ばれる幼稚園として、地域に根差した「ほんまもん」を取り入れた保育を進め、それを地域に発信するようにする。 ・園の教育内容、未就園児の教育相談や預かり保育の取組などについて、積極的に広報し、広く知っていただくとともに、在園児の保護者にも、KKP や学校運営協議会など、地域とのつながりに支えられていることを折にふれて発信する。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の組織に、より多くの地域の方が関わっていただくようになったか。 ・コロナ禍の中でも、幼稚園の取組を様々な形で学校運営協議会に伝えたり、地域に広報したりできているか。（発信方法・回数） ・地域の資源を活用した保育に取り組んでいるか。 ・アンケート

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none">・感染症感染拡大状況が落ち着いた時期には、十分に注意を払って、地域の方に関わっていただくことができた。お茶会、絵本の読み聞かせ、餅つき、花火大会・・・等。・幼稚園の取組の広報は幼稚園だよりやホームページが中心で、行事等の機会に実際に保育の一端をご覧いただく機会がほとんどもてていない。・本園の近くの京都御苑等、地域の資源を活用することができた。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none">・これまでと同様な取組は無理だが、感染症の状況が落ち着いている時期には、対策を十分に講じて様々な取組を、工夫を凝らし、リスクの低い方法や内容で実施することができた。・京都御苑、鴨川、相国寺など保育に取り入れることができたが、保育のねらいをもって地域の良さが実感できるようにしたい。・出町茶論、地域の小学校や幼稚園、KKPでも、動画等で取組の一端を紹介することができた。今後も ICT の効果的な活用を進めたい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none">・地域の教育資源はまだ工夫して活用するようにしたい。・人的な交流についても、可能な時期に感染症対策を講じリスクを下げつつ、積極的に進めるようにしたい。・ICTを効果的に活用するようにする。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても地域資源を活用した保育を工夫して進めることができたか。 ・コロナ禍において、幼稚園の取組を様々な形で学校運営協議会や、地域に広報できたか。 ・アンケート
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収束すればまた徐々に増やしていけばよいと思う。

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・以前と比較することは難しいが、相国寺様境内での朝マラソン、鴨川河川敷での凧あげなどの活動、京都御苑へのお散歩遠足など、地域に様々な保育環境があり活用することができた。 ・地域の人材を活用することは、感染拡大が落ち着いていた一部の期間を除いて十分にはできていない。しかし、インターネットなどで交流することはできた。 ・広報紙による広報はできていない。掲示して紹介することにとどまった。 ・アンケート調査では、高い評価をいただいている。
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の、屋外の保育環境に恵まれているため、公共交通機関を使わないで園外に出かけて様々な活動ができた。 ・地域の様々な人材の活用は、一部の時期を除いて難しかった。人との関わりは幼児期に大切にしたいが、リスクを伴うため、直接触れ合わない取り組み方の工夫が必要である。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の環境を保育に活かしていきたい。 ・ICT環境がかなり充実してきている。対面が叶わないことは予想されるので、オンラインでよりリアルに交流できる工夫を相手側と進められるようにしたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>ICTの有効活用はお願いしたい。今後もコロナ禍でできなかったことをコロナ終息後には元に戻して以前の活動をお願いしたい。</p>

(6) 教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <p>教職員が心身共に健康で、「わたしの幼稚園」と愛情と誇りをもって自園を語ろうという共通の目標の下、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場づくりを進める。</p>
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。 ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が「わたしの幼稚園」に欠かせない存在であることを認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高め、業務にあたるようにする。コロナ禍、少ない園児数など

の状況で、教職員の配置、役割分担など検討し、共通理解を図って取り組んでいく。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・時間外勤務の時間が減少しているか。
- ・年休の取得が昨年度より伸びているか。
- ・会議や打ち合わせの内容や進め方の工夫、回数や時間の効率化が図られているか。
- ・休憩時間にリラックスして過ごす様子が見られるか。

中間評価

各種指標結果

- ・時間外勤務の時間は減少傾向にある。
- ・年休取得は大きな増加はないが、必要な時に取得している。
- ・様々な勤務形態があり、全員が揃って共通理解を図る時間がもちにくかった。
- ・短時間ではあるが、休憩し、リラックスして過ごす様子が見られる。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・働き方改革と感染症対策を意識した働き方が合わさって、時間外勤務が減少し、在宅勤務の形態で働くことも見られる。しかし、管理職の時間外勤務の時間は減少幅が少ない。
- ・これまでの保育の取組の多くをコロナ禍を踏まえ、時間をかけ一から見直さなければならなかった。しかし、効率的に仕事を進めることや教職員への割振りなど考えたい。
- ・教職員が共通理解を図るために、時間が持ちにくいことを考えると、別の方法で工夫する必要がある。
- ・感染症のリスクを考えると、休憩時間に集い、話をすることも控えなければならない。そのことをお互いに分かった上で親睦を図りたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・コロナ禍における保育の見直しと、業務の割り振りを考える。
- ・教職員が共通理解を図るために必要な方策を考え実践する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・管理職の時間外勤務の時間が減少しているか。
- ・会議や打ち合わせの工夫以外にも、共通理解を図る方策を考え実践しているか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・日頃の先生方の国際色豊かな園児への対応に加えて、感染予防対策、小さい子どもたちに教えることは大変なご苦労があると思います。その中においてもいつもニコニコされて明るい園の雰囲気に頭が下がります。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・管理職の時間外勤務時間は改善してきているが、わずかである。
- ・新たに設けたホワイトボード等に必要な内容を記載し、情報共有を進めるようにした。
- ・会議や打ち合わせを効率的に進めることができず、回数や時間を減らすことができていない。

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・依然として、様々な職種、勤務形態の教職員がたとえ短時間であっても対面して会議をするこ

評価	<p>とは難しい。共通理解を図るために伝達や資料作成等にも時間や準備が必要となり，負担となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに必要な情報を集約することは一定の成果があった。 ・コロナ禍の中での保育は，保育内容そのものに加えて，感染症対策として日程や場所，手段など改めて検討し直す必要があり，短時間で検討することが難しい。 ・外国をルーツにする幼児，保護者の割合が高くなり，多言語対応も考える必要があった。
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのコロナ禍の中での保育を踏まえ，保育で大切にしてきたことやノウハウを今後の取組に活かすことや，これまでやって来たことにとらわれない新たな取り組み方を試みしてみる。 ・一部に負担が集中しないよう分担や協働を進める。
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き改革を徹底して、勤務時間外の労働時間が長時間にならないように工夫していただきたい。これからも，先生方の負担が増えることのないように無駄を排除することが大切だ。